

## ●重症心不全

拡張型心筋症や急性心筋炎などによって心臓の筋肉の収縮が極度に弱まってしまうと、体に必要な血液を送り出すことが出来なくなってしまいます。その結果、肝臓や腎臓、脳などに必要な酸素を供給できなくなり、これらの臓器の機能が障害され命に係わる可能性があります。このような危機的状態のことを「重症心不全」と呼んでいます。

重症心不全では基本的にはお薬での治療を最大限行いますが、お薬の効果が不十分な場合には、大動脈内バルーンパンピング（IABP）や経皮的心肺補助装置（PCPS）などの心臓を補助する機械を用いて心臓の補助をしてあげることができます。さらに 2011 年からは年齢や御病状など、いくつかの制限はありますが、植込型補助人工心臓（図）が使えるようになり、ご自身の心臓の筋肉が極度に弱まっている状況でも自宅でも機械の補助の下、生活できる方々が増えています。

当院では心臓血管外科と協力し、植込型補助人工心臓も含め、重症心不全の方に最も適切な治療を提供しています。また、急激に病態が悪化したような場合でも即応できる体制を整えており、実際多くの患者様が他院から救急搬送され、当院にて闘病されています。

